

香港商務印書館のデジタル出版の歩みを追う

毛永波

1. 商務印書館のデジタル開発 20 年の歩み

香港商務印書館は、科学技術の発展の潮流を 20 年間追い続けてきて、単体の光ディスクからハードウェア電子辞書、ネット出版まで、さまざまなデジタル形式を試し、図書出版の変革のために新しい科学技術の応用を試みてきた。

1990 年代初め、Philips 社が売り出した CD-i マルチメディア・プラットフォームを採用してデジタル出版物を出版した。その後、CD-Rom マルチメディア光ディスクが興って、商務出版は芸術画集シリーズのディスクを出版した。

1990 年代の『漢語大詞典』の開発は、当時の香港商務の重要なプロジェクトのひとつで、総データ量は 5000 万字に達して、これによってデータベースの開発が始まり、2014 年には「漢聚言語データベース」がオンラインで公開された。

1999 年から 2002 年までの間、教科書市場に向けた「学識ネット」と販売向けのオンライン書店を立ち上げた。

2006 年以降には、デジタル出版プロジェクトはネットワークのプラットフォームに移行して、2008 年にはインターネット版商務新詞典や中文リーディング・プラットフォームなどのオンライン教育プラットフォームを打ち出した。

2. デジタル出版の方向と会社設計の一致

商務印書館は出版と販売業務をおこなっており、出版社と書店を持っているが、これは他の出版社と異なる部分である。デジタル出版の方向は、会社の業務計画をめぐっておこなわれる。読書モデルの発展に応じて変化したデジタル出版物（単体光ディスク、インターネットなど）、商業経営モデルの発展に応じて変化したオンライン書店などである。

デジタル出版の方向と紙本図書出版の方向は大きく一致しており、商務印書館が辞典や画集などの方面で蓄積してきた豊富な資源と編集人材を活用して、伝統的な紙の本とデジタルブックの両方で飛躍し、協力して発展することを期待する。デジタル出版は伝統的にアドバンテージをもつプロジェクトを集中的に発展させる。一つめは悠久の伝統をもつ言語辞典系図書、二つめは前世紀 80 年代から始まった大型画集、三つめは教科書の出版である。

3. 伝統とデジタルの融合

新しい情報技術の進歩は、従来の出版構造に対しては破壊的な革新としてあらわれ、出版社はデジタル業務を発展させる際に、伝統とデジタルの融合的革新の実現を望み、伝統的な優位を維持し、同時に時代の傾向と歩調を合わせようと望んでいる。例えば、商務印書館は大型のデジタル辞典を強力に発展させ、それを利用して言語データベースを発展させ、将来

の競争力強化を期待しているが、しかし学生辞書のデジタル化に対しては保守的な態度をとっている。

マーケティング効果から評価すると、デジタル出版は依然としてメインの収入源には成りたない。なぜならば、ネットの海は広大無辺とはいえ、言語には隔たりがあり、マーケティングも地域の制限を受ける。開発製作の面では制限を受けないが、しかしどのようにして読者に届けるかということになると、いまだに多くの制限が存在する。

4. 世界は平坦ではない

1990年代に中国語のデータベースを開発した時には、多くの技術上の困難があり、ソフトウェア、フォント、音声エンジンなどはだいたいにおいて自分で研究をおこない、開発を委託していた。現在では技術的な敷居は消え去り、ピークを過ぎて平坦な谷間におりてきた。出版に活用できる技術はすでに一般的なツールになってしまったが、これは二つの問題をもたらすことになった。コンテンツとサービスが少数の会社に次第に集中してきたことと、もう一つはデジタル出版サービスが日に日に必須となってきたことであり、小中学校教育では特に顕著である。デジタル・リーディングは世界的な読書形式になりうるが、しかしデジタルブックのマーケティングでは巨頭が並び立ち、地域ごとに相互に代行をおこなう局面がつけられている。

出版社から見た場合、直面する問題としては、ひとつには大手のデジタル会社とどのようにして依存関係を構築するかで、もう一つは特徴のあるコンテンツと表現をどのように作りあげるかである。商務印書館は言語領域の開発と教育サービス領域を重視し、不断に資源を蓄積し、データ販売と検索を営利の基盤とし、学生の学術への需要を出発点として発展していきたいと望んでいる。

毛永波 (Mao Yong-bo)

1991年に上海復旦大学修士課程を修了し、北京商務印書館に入社、中国語研究学術図書と言語辞典などの編集に従事する。2001年から商務印書館(香港)有限公司の助理編集長、副編集長を務める。編集出版とマーケティングを管理し、紙本とデジタルの出版、および言語のデータベースの開発の管理を担当する。社会活動として、中国辞書学会副事務総長、中国辞書学会語文詞典専門委員会委員などを歴任。香港嶺南大学中国語文教育とテストセンター校外委員を務める。